

PROFILE

八木田 和 弘

京都府立医科大学大学院医学研究科神経生理学



平成 22 年 9 月 1 日付けで、京都府立医科大学大学院医学研究科神経生理学の教授に就任いたしました。私は、平成 7 年に京都府立医科大学を卒業し、同第 3 内科（現消化器内科）にて 2 年間研修後、京都府立医科大学大学院博士課程に進みました。大学院入学と同時に神戸大学医学部分子脳科学部門（岡村均教授）に国内留学という形で出ておりましたので、今回、13 年ぶりに母校に戻って来たことになります。

京都府立医科大学の神経生理学教室は、外山敬介先生および木村實先生が教授を務められた伝統ある教室です。当初は、全く流れの異なる私がこの教室を担当させていただくことに戸惑い、「私にできるだろうか？」という不安がありました。しかし、約半世紀ぶりの府立医大出身者教授として期待して下さる先生も多く、この重責を引き受ける覚悟をいたしました。

私は、一貫して概日リズムの研究に従事して参りました。私の代表的な研究業績としては、1) 概日時計の振動体が概日リズムの中核である視交叉上核のみならず、線維芽細胞など末梢細胞にも存在していることを証明したこと、2) ES 細胞や iPS 細胞など多能性幹細胞には体細胞にあるような概日時計の振動が見られないが、細胞の分化に伴って概日時計が形成されていくこと、などがあげられます。分子生物学的手法や 1 細胞イメージング技術を駆使し、新しい方法は躊躇なく取り入れようとしてきました。今後は、これらの成果を基盤として、細胞分化と関連した概日時計形成メカニズムの解明や、細胞時計から生体レベルでのリズムを生み出す細胞間ネットワークの形成メカ

ニズムの解明といった、「生物時計の自己組織化メカニズム」について考えていきたいと思っております。特に、「細胞内プログラム」と「外部環境要因」の関係に注目し、生命の理（ことわり）を追究する学問としての生理学を展開していきたいと考えております。

生理学会には、同じ概日リズム研究分野の大先輩である、北海道大学医学部時間生理学の本間研一教授および本間さと教授のお二人に導いていただきました。両先生から、常に暖かいサポートとご指導をいただいたこと抜きには、今の私はなかったと思います。この場をお借りしてお礼申し上げます。何ぶん未熟で至らぬことも多いと存じますが、生理学会の皆様には、今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

略歴

- | | |
|--------------|-----------------------------------|
| 平成 7 年 3 月 | 京都府立医科大学医学部医学科卒業 |
| 平成 12 年 5 月 | 京都府立医科大学大学院医学研究科博士課程修了 |
| 平成 12 年 6 月 | 神戸大学 医学部 助手(第2解剖) |
| 平成 14 年 6 月 | 神戸大学大学院 医学系研究科 講師 (同) |
| 平成 16 年 3 月 | 名古屋大学大学院 理学研究科 COE 助教授 (システム生命科学) |
| 平成 18 年 11 月 | 大阪大学大学院 医学系研究科 准教授 (神経細胞生物学) |
| 平成 22 年 9 月 | 京都府立医科大学大学院 医学研究科 教授 (神経生理学) |